

令和4年度生産性向上支援訓練事業取組団体募集案内

令和4年1月7日

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
鹿児島支部鹿児島職業能力開発促進センター

1 趣旨

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構鹿児島支部鹿児島職業能力開発促進センターの生産性向上人材育成支援センター（以下「センター」という。）では、地域の中小企業等における生産性向上に関する課題及び人材育成ニーズに対応した職業訓練（生産性向上支援訓練（以下「生産性訓練」という。）を、民間機関等の教育資源を活用（民間委託）して実施しているところであるが、より多くの中小企業等に訓練の受講機会を提供するため、以下のとおり、会員企業の生産性向上のための人材育成に取り組む事業主団体のうち、的確かつ効果的に訓練を実施できる事業主団体を事業取組団体として選定し、当該団体の会員企業に対する生産性訓練実施業務を委託する。

2 募集内容

(1) 件名

会員企業に対する生産性向上支援訓練実施業務

(2) 事業の内容

事業取組団体の会員企業に対する生産性訓練の実施

(3) 募集する訓練コース数

イ 70歳までの就業機会の確保に資する中高年齢層向けの訓練コース

（生涯キャリア形成分野のカリキュラムモデルを45歳以上の者が対象であることを明示する訓練コース（以下「ミドルシニアコース」という。））

2コース程度

ロ 上記イ以外の訓練コース

8コース程度

(4) 申請に当たっての留意事項

イ 申請者は、事務所の所在地が鹿児島県内にある者であること。

ロ 一団体当たりの申請コース数は、ミドルシニアコースは1コース、ミドルシニアコース以外の訓練コースは2コースを上限とする。

ただし、事業主取組団体方式と併せてオーダーコースを利用する場合、オーダーコースの利用可能コース数は、事業取組団体として申請した訓練コースを減じた数とする。

（例：オーダーコースの利用上限数が4コースの場合、かつ、事業取組団体として選定したコース数が3コースの場合、オーダーコースの利用可能コース数は、 $4 - 3 = 1$ コースとなる。）

ハ 複数の事業主団体が合同で本事業に取り組む場合にあつては、主として事業に取り組む事業主団体（以下「幹事団体」という。）が申請者となり、それ以外の事業主団体（以下「協力団体」という。）の情報を、事業取組団体申請書に記入すること。

3 業務概要

- (1) 会員企業が抱える生産性向上に関する課題や人材育成ニーズの把握
- (2) 講師、カリキュラム、テキスト、使用機材、訓練実施場所等の手配
- (3) 会員企業に対する訓練コースの広報、受講者確保
- (4) 訓練の実施、フォローアップ
- (5) その他（1）から（4）までに関連した機構との連絡、調整、報告等

4 事業取組団体要件

鹿児島県における生産性訓練の事業取組団体は、生産性訓練の趣旨・目的を理解し、かつ、以下の（1）から（11）までに掲げる要件を満たす必要があること。

なお、自らの会員企業だけでは十分な数の受講者を確保することが困難な事業主団体が複数集まって合同で本事業に取り組むこともできるものとするが、この場合、主として事業に取り組む事業主団体は以下の（1）から（6）まで及び（8）から（11）までに掲げる要件を、それ以外の事業主団体は以下の（1）、（4）及び（9）から（11）までに掲げる要件を満たす必要があるものとし、以下の（7）については複数の事業主団体が合同で要件を満たす必要があること。

(1) 次のイからホまでのいずれかに該当する事業主団体であること。

イ 中小企業団体の組織に関する法律（昭和 32 年法律第 185 号）第 3 条に規定する次の（イ）から（ヌ）までのいずれかに該当する団体

- (イ) 事業協同組合
- (ロ) 事業協同小組合
- (ハ) 信用協同組合
- (ニ) 協同組合連合会
- (ホ) 企業組合
- (ヘ) 協業組合
- (ト) 商工組合
- (チ) 商工組合連合会
- (リ) 都道府県中小企業団体中央会
- (ヌ) 全国中小企業団体中央会

ロ 商店街振興組合法（昭和 37 年法律第 141 号）に規定する商店街振興組合及び商店街振興組合連合会

ハ 商工会議所法（昭和 28 年法律第 143 号）に規定する商工会議所

ニ 商工会法（昭和 35 年法律第 89 号）に規定する商工会

ホ 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成 18 年法律第 48 号）に規定する一般社団法人及び一般財団法人（公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する

法律（平成 18 年法律第 49 号）に規定する公益社団法人及び公益財団法人を含み、事業主を主な会員とし、当該事業主に対する支援を主な目的として設立され、活動している（※1）法人に限る。）

ヘ イからホまでに該当しない事業主団体であって、鹿児島県内で平成 30 年度に事業取組団体の認定を受けた団体のうち、同年度中に良好な実績により生産性訓練を実施したとセンターが認めた団体（※2）

- (2) 生産性訓練を適切に実施することができる事務運営体制（※3）を有していること。
- (3) 会員企業に対する人材育成を継続的に取り組んでいること（※4）。
- (4) 会員企業が抱える生産性向上に関する課題及び人材育成ニーズを的確に把握していること。
- (5) 生産性訓練を実施して会員企業の生産性向上に取り組む意欲と能力を有していること。
- (6) 生産性訓練の実施に必要な実績と経験を有した講師を用意できること。
- (7) 生産性訓練の実施に当たり受講者を 10 人以上（そのうち 6 人以上は、おおむね 3 社以上の会員企業の従業員とする。）確保できること。
- (8) 当該事業主団体を実施機関として活用することが、地域の中小企業等の生産性向上に効果的であるとセンターが認めた事業主団体であること。
- (9) 事業取組団体が実施する業務の内容を正しく理解し、センターの指示に適切に対応できること。
- (10) 令和 3 年度に事業取組団体として生産性訓練を実施したのある者のうち、センターからの改善指示を受けた者については、原因分析や改善策を検討し、十分な再発防止策が講じられているとセンターが判断できる者であること。
- (11) 次のいずれの事項にも該当しない者であること。

イ 予算決算及び会計令（昭和 22 年勅令第 165 号。以下「予決令」という。）第 70 条の規定に該当する者（未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者を除く。）

ロ 予決令第 71 条の規定に該当する者

ハ 申請書提出日現在において、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「機構」という。）より競争参加資格の停止措置を受けている者

ニ 教材等の著作権法（昭和 45 年法律第 48 号）違反等、関係法令に違反し処罰の対象又は損害賠償の対象となった者であって、当該事実が判明した日から 2 年を経過していない者

ホ 機構が定める「反社会的勢力への対応に関する規程」第 2 条に規定する反社会的勢力に該当する者

ヘ 申請書提出日現在において、労働基準法（昭和 22 年法律第 49 号）及び労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 号）その他の労働関係法令に違反したことにより監督官庁から過去 3 か月以内に処分を受けた者、同法令違反容疑で有罪判決を宣告され刑の執行中（執行猶予の場合は執行猶予期間経過中）の者、又は同法令違反容疑で逮捕勾留、書類送検若しくは起訴されている者

ト 破壊活動防止法（昭和 27 年法律第 240 号）に定めるところの破壊的団体及びその

構成員

チ 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和 23 年法律第 122 号）に定めるところの風俗営業、性風俗関連特殊営業及びこれらに関連する業務従事者
リ 会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）に基づき更正手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）に基づき民事再生手続の申立てがなされている者

ヌ 税法違反等、公序良俗に違反し、社会通念上、業務を委託することが相応しくない
とセンターが判断した者又は判断する者

ル その他業務委託先として適性を欠くと当支部契約担当役が判断した者又は判断する者

(※1) 「事業主を主な会員とし、当該事業主に対する支援を主な目的として設立され、活動している」とは、会員のおおむね 2 / 3 以上が企業又は事業主団体で構成され、会員企業・団体の行う事業活動の改善発達のための支援を主たる活動内容としていることをいう。

(※2) 本要件（(1) へ）については、令和 4 年度の事業取組団体限りの措置であること。

(※3) センター、講師、受講者等との連絡調整、受講者の募集・受付、受講料の振込等に関する事務、各種書類・資料の作成、受講者からの問い合わせや苦情等への対応、訓練当日の事故・災害等の緊急事態への適切な対応や受講者が所属する企業その他必要な機関に対する連絡調整等ができる体制として、事業責任者（講師との兼務は不可）が 1 人以上配置されていること。

(※4) 過去 3 年度の間各年度 1 回（※回数実施施設において変更可）以上、会員企業を対象とした研修等（通信の方法による実施を含む。）を実施していること。なお、令和 4 年度限りの措置として、新型コロナウイルスの影響により令和 2 年度及び 3 年度に研修等を実施できなかった事業主団体については、センターが認める場合に限り、上記の研修等を令和元年度に 1 回以上実施していれば差し支えないものとする。

5 団体業務取扱要領を交付する日時及び場所

(1) 日時

令和 4 年 1 月 7 日（金）から令和 4 年 1 月 28 日（金）まで（土・日祝日を除く毎日午前 9 時から正午まで及び午後 1 時から午後 4 時半まで。

なお、電子メールによる令和 4 年度生産性向上支援訓練事業取組団体業務取扱要領（以下「団体業務取扱要領」という。）等の送付を希望する場合は、事業主団体名、担当者名及び電話番号を記入の上、kagoshima-seisan@jeed.go.jp（全て半角）あて送信すること。

※ 応募者多数の場合は、募集を早期に締め切る場合があること。

※ 電子メールの件名は「事業取組団体業務取扱要領の送付依頼」とすること。

(2) 場所

鹿児島県鹿児島市東郡元町 1 4 番 3 号

鹿児島支部鹿児島職業能力開発促進センター生産性センター業務課

TEL：099-254-3774

(3) 持参するもの

団体業務取扱要領等を受領する者の名刺

6 申請

事業取組団体となることを希望する事業主団体は、以下により申請すること。

(1) 提出書類

イ 生産性向上支援訓練事業取組団体申請書

ロ 添付書類（写しの添付で可。なお、複数の事業主団体が合同で実施する場合にあっては、（イ）及び（ロ）は幹事団体及び全ての協力団体のものを、（ハ）及び（ニ）は幹事団体のものを添付すること。）

（イ）定款（又は規約、規則等）

（ロ）会員一覧（会員構成が分かるもの及び法人会員の一覧）

（ハ）事業報告書（又はそれに類するもの）

※最新の事業報告書から遡って3年分。必要箇所の抜粋版でも可。

（ニ）過去3年度において、会員企業を対象とした人材育成（※1）を各年1回以上（※2）実施したことが分かる資料（研修報告書、パンフレット等）

（※1）職業に必要な能力の開発を目的としたOff-JTで実施する訓練、セミナー、講習会、勉強会等をいう。

（※2）令和4年度の申請においては、上記5（3）の（※4）に留意すること。

（ホ）その他センターが必要と認める書類

(2) 申請受付期間

令和4年1月11日（火）から令和4年2月4日（金）まで。（必着）

(3) 提出先

鹿児島県鹿児島市東郡元町14番3号

鹿児島支部鹿児島職業能力開発促進センター生産性センター業務課担当まで

(4) 提出方法

持参、郵送又は電子メールとする。

なお、郵送の場合は、封筒表面に「事業取組団体申請書在中」と添え書きし、鹿児島支部鹿児島職業能力開発促進センター生産性センター業務課あて書留郵便等発送履歴が残る方法によること。

おって、電子メールの場合は、電子メール送信後に下記10の問い合わせ先に電話にて連絡すること

(5) 提出に当たっての留意事項

イ 受付時間は、土・日祝日を除く毎日午前9時から正午まで及び午後1時から午後4時半までとする。

ロ 虚偽の記載をした申請書は、無効とする。

ハ 参加資格を満たさない者が提出した申請書は、無効とする。

ニ 提出書類に不足・不備がある場合は、確認の対象としない。

ホ 提出書類の内容に不明な点があるなどの場合は、申請者に追加資料の提出を求められることがある。

- へ 申請書の作成、提出等、申請に要する費用は、提出者の負担とする。
- ト 提出書類は返却しない。
- チ 申請書の提出者数が上記 2（3）の募集コース数を大幅に超過するなどした場合は、その時点で募集を締め切る場合がある。
- リ 令和 3 年度の事業取組団体としてセンターが選定した申請者であって、提出時点において添付書類に変更がない場合は、当該添付書類を省略することができるものとする。

(6) 提出された個人情報の取扱い

申請に際して提出された個人情報は、生産性訓練事業取組団体の選定に関する事務処理に利用し、事業取組団体選定後は、訓練の実施に関する事務処理及び業務統計において利用する。また、センターは、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成 15 年法律第 59 号）を遵守し、保有個人情報を適切に管理し、個人の権利利益を保護する。

7 要件確認及び選定

適正な申請書を提出した事業主団体には、センターが連絡の上、訪問し、事業取組団体要件を満たしていることの確認を行い、要件を満たす申請者を事業取組団体として選定する。確認の際、申請者の協力が得られなかった場合は、事業取組団体として選定しない。

なお、令和 3 年度の事業取組団体として申請者をセンターが選定している場合や、提出書類による確認を行った結果、申請者が事業取組団体要件を満たさないことが明らかであった場合は、訪問による確認を省略することがある。

確認の結果、事業取組団体要件を満たした申請者が提出した訓練コースの数が、募集する訓練コース数を上回る場合は、事業取組団体選定の視点（団体業務取扱要領等参照）を踏まえ、センターにおいて申請者ごとの選定コース数を決定するため、申請者が事業取組団体要件を満たす場合であっても選定されない場合がある。

おって、同等の評価を得た申請者が複数あった場合は、抽選により決定する。抽選を行う日時及び場所は、後日、センターから連絡するので、申請者は、申請者自ら又は代理人を参加させること。おって、抽選に参加できない場合は、センター職員が代理で抽選を行う。

また、上記 4（10）の改善指示を受けた申請者については、事業取組団体要件を満たした申請者が提出した訓練コースの数が、募集する訓練コース数の範囲内に収まる場合であっても、改善指示に対する原因分析や改善策の検討状況を踏まえて、センターにおいて選定コース数を決定する。

8 その他

詳細は、団体業務取扱要領等による。

9 問い合わせ先

鹿児島支部鹿児島職業能力開発促進センター生産性センター業務課 担当：山元

TEL : 0 9 9 - 2 5 4 - 3 7 7 4、FAX : 0 9 9 - 2 5 4 - 3 7 5 8

電子メール : kagoshima-seisan@jeed.go.jp (全て半角)